社会福祉法人中央会　令和４年度事業報告

【施設方針】

施設理念　「家のぬくもり、家族のつながり、地域のつながりのある暮らし」の実現に取り組む。

1.　新型コロナウイルス感染症の状況

令和４年に、新型コロナウイルスはデルタ株からオミクロン株に変異し、７月には第７波に感染拡大、令和５年１月には第８波で最大規模の感染者数となった。当施設においても、昨年１２月にデイサービスとショートステイを併用している在宅利用者様による新型コロナウイルスの持ち込みがあった。そのため、デイサービスではまん延を防ぐため自主的に５日間の営業休止を行った。ショートでは、濃厚接触してしまった利用者様には退居をお願いしたが、介護できる家族がいないことで自宅に戻れない利用者様も多く、営業継続せざるを得ない状況となった。一方で、認知症で動き回る方を他の方と接触しないように職員が１対１で対応しなければならない場面もあり、職員の配置が十分に行えない中、非常に厳しい介護現場となった。職員においては、第７波・第８波ともに、家庭内感染者は複数人、濃厚接触者は多数いたが、職員によるコロナウイルスの施設内持込みはなかった。また、３年ぶりに流行が心配されたインフルエンザについても、施設内まん延はなかった。

第８波では高齢者福祉施設においてはクラスター発生と重症化が問題となり、実際に在宅の利用者様の中には重症化し入院となり、亡くなられた方もおられた。当施設で、３年の間、特別養護老人ホーム・グループホーム入居者様への感染が起こらなかったことは本当に良かった。職員の感染予防に対する意識が高く、私生活においても日々の対策が行われていた結果だと思われる。

2.　新型コロナウイルス感染症予防対策

職員と入居者様に、石川県から支給された新型コロナウイルス抗原定性検査キットと金沢有松病院から預かった新型コロナウイルス感染症及び季節性インフルエンザ抗原定性検査の同時検査キットを使用し、施設内で検査を実施した。また、第４回・第５回コロナワクチン接種とインフルエンザワクチン接種が優先的に実施できた。施設内での新たな感染予防対策として、看護師が各事業所に定期的に感染ラウンドを行い、介護職

員へ実地指導を行った。また、「感染者及び濃厚接触者聞き取りシート」を導入し、報告を受けた者がシートに記載し、その情報をもとに、速やかに主任・看護師・事務長・施設長等で協議し対策を講じた。ゾーニング実施中の事業所の周知は、職員玄関に掲示することで業務委託の職員も含めた施設内職員全員が出勤時に確認できるようにした。

3.　ウイズコロナの施設運営

面会については、つながりや交流が心身の健康に与える影響という観点から、３年に及ぶガラス越し面会を、パブリックスペースで職員が同席し面会ルールを厳重にしたうえでアクリル板越しではあるが直接面会に緩和した。長い間待って頂いていた家族様には大変喜んで頂いた。閉ざされた環境での生活が当たり前ではないことを念頭に、レクレーションなど施設内での楽しみを工夫してきた。外出は今春から花見ドライブを開始した。運営推進会議は３年ぶりに３月に開催し、民生委員さんには「長い間、お会いすることができなかった。再会が楽しみでした。」と言って頂けた。地域行事も再開の予定とのことで、当施設との行事交流をお願いした。

4.　職員育成

１年間定期に外部講師の介護アドザイバーを招き、職員個々の基本的介護技術の評価と指導を受けた。自己流になっていたり基本を忘れていたりすることもあり、客観的に評価・指導してもらうことができた。職員からは、「これでよいのかと不安になっていたケアを見てもらい、指導を受けることで、スキルアップやモチベーションの向上つながった、今後も継続してこのような研修機会をつくってほしい」と好評だった。

5.　職員の採用と定着

令和４年度は、派遣職員を５名から１名に減らし社員に変換した。新卒職員１名を含む新採用職員のほとんどが安定して働いてもらっている。育児休暇は２名、介護休暇は１名取得しており、すでに２名復帰している。本年度の特徴として、持病のうつ病の再燃でやむなく退職した職員が３名いたこと、入院した職員も３名いたことである。入院した職員は復帰している。現在の雇用者数は１０５名、平均年齢は４９歳、６０歳以上は３１名と多い。職員の年齢層は２０代～７０代と幅広いことが当施設の特徴であり、各年代の良さを生かし家庭的な施設の雰囲気をつくっている。職員においても、特に子育て中の小さいお子さんが熱を出したため休む職員がいれば、独身者や子育ての終わった職員が代わりに勤務に出てくれるなど、助け合いながらコロナ禍の間もシフトを維持することができた。

6.　看取りの取り組み

特別養護老人ホームの前年の退居者は２２名と多かったが、新しい入居者様はお元気

なこともあり令和４年度の退居者は７名と少なかった。２名が看取り退居で、あとの５名は、看取りの希望の方もおられたが、治療により回復可能な状態であることから入院の運びとなった。看取りの１名の方は当施設に７年間過ごされ、ご家族の見守る中お亡くなりになられた。グループホームでは２名の看取りで、そのうち１名は癌末期の方だった。グループホーム弐番館でも２名の看取りを行った。遠方にお住いの方にも面会に来ていただき、どのご家族様からも「最期を一緒に過ごし、お別れをすることができて良かった。」と感謝の言葉をいただいている。

7.　経営基盤の強化と確立

（1）　令和４年度目標達成状況

特別養護老人ホームはほぼ達成できた。ショートステイ・グループホーム、グループホーム弐番館・小規模多機能は令和４年度稼働率目標を上回ることができた。デイサービスだけが目標達成に至らなかった。

【令和４年度稼働率】

事業所	令和４年度目標	結果
特養	９７％	９６．９％
ショート	９８％	１００．４％
グループホーム	９７％	９８．９％
グループホーム弐番館	９７％	９８．５％
小規模多機能	８８％	９０．７％
デイサービス	７６％	６７．６％

デイサービスの不振は、新型コロナ第８波の影響がデイサービスで最も大きかったことが原因である。同居家族様が感染し利用者様が濃厚接触者となったため、利用をお断りするケースが非常に増えてしまった。また感染回避のため利用を控える方も多かった。５日間の営業休止もあり、令和４年１２月、令和５年１月、２月に稼働率が激減した。

（2）　人件費について

前年度に比べ、退職給付支出を除くと、約６００万円の増額となった。原因としては、行政より介護職員等の賃金改善を目的として頂いている処遇改善加算の支給額が前年度よりも約５６０万円増えたことがあげられる。そのため、法人からの持ち出しとなる支出は、ほとんど増やさずに、人員の入れ替えと共に給与のベースアップを図ることができた。

（3）　事業費について

前年度に比べ、約３３０万円の増額となった。特に光熱費は高騰し前年比約２９０万円の費用増となった。行政より、「原油価格高騰緊急対策」として２３６万円

の補助金を頂けたが、差し引いても、約５４万円の法人負担が増えた。また、グループホームの給食費支出が、それぞれ約４５万円ずつ増えている。入居者数が増えていることもあるが、食材料費高騰の影響が大きかった。本館においても給食委託会社メフォスから値上げを依頼されているため、今年２月から全事業所で食費の値上げを行った。

（４）　事務費について

前年度に比べ約１８０万円の減額となった。人材派遣を活用せずに人員の安定化が図れ、約１６０万円の費用削減となった。また、修理が困難で買い替えが必要な備品が増えてきていることから、修繕費は減っている。増えた費用としては、外部講師による介護力向上研修や外部研修の機会が増え、２８万円研修研究費が増えた。

（５）　資産管理について

特別養護老人ホームで使用している入浴機器のうち１台、メンテナンスが難しい状態となり、買い替えを行った（人材確保等支援助成金申請中）。また、入浴時に使用する据え置き型手すりの買い替え、居室エアコンも１台買い換えた。その他、小規模多機能の利用者様が使用するテーブルを１台購入（北國愛のほほえみ基金５万円使用）。福祉避難所としての補助金制度を活用し、自家発電機を３台購入した。助成金や補助金の活用を積極的に図り、必要なものは順次取り換えていく。

（６）　財務管理について

前年度で本館の県社協への返済が終了したため、本年度は２００万円減額の約２，５００万円（利息分含む）を返済した。令和５年度では、２，４５０万円（利息分含む）を予定している。

（７）　資金収支活動の推移と報告（全体・事業所別）

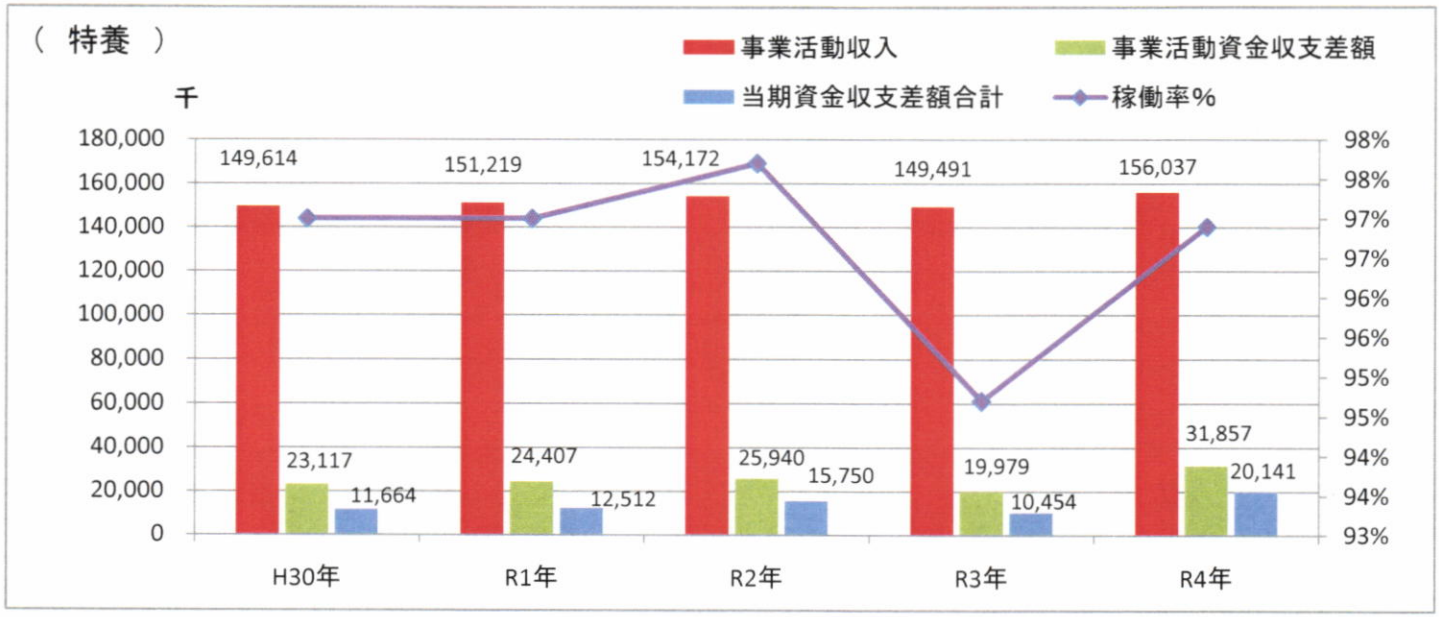
次ページのグラフ参照

（7）資金収支活動の推移と報告（全体）

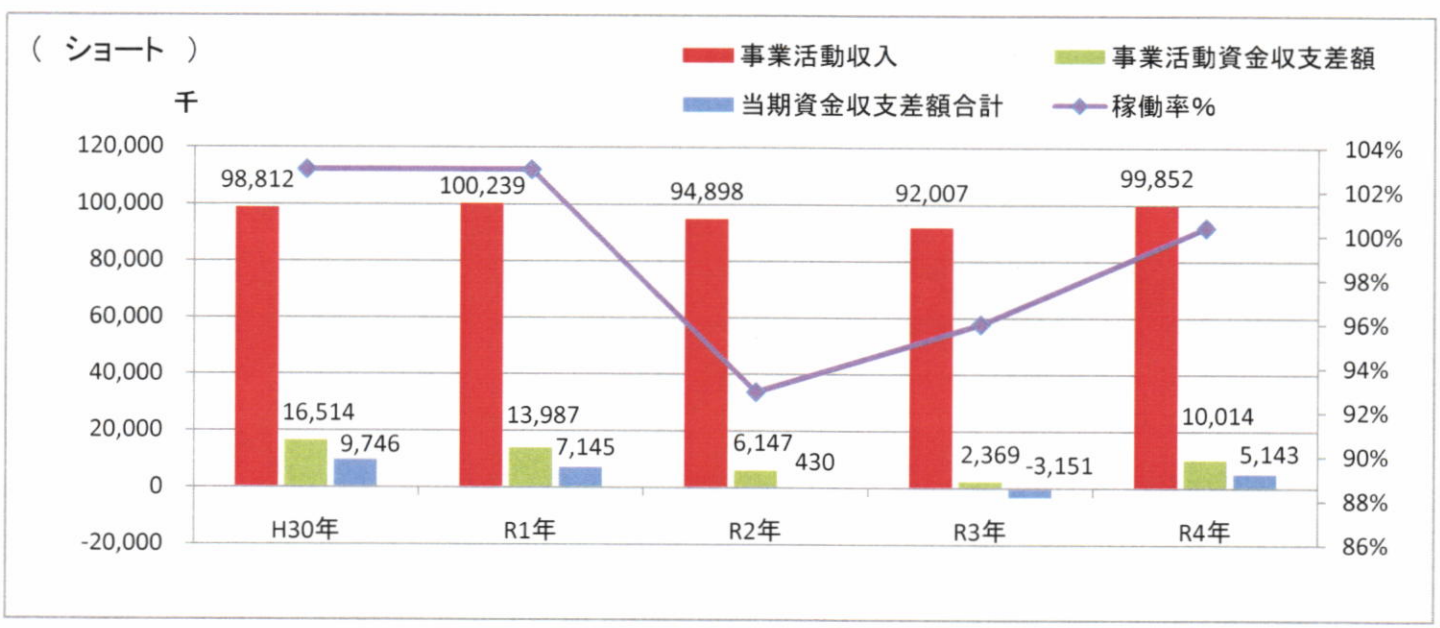
	H23年	H24年	H25年	H26年	H27年	H28年	H29年	H30年	R1年	R2年	R3年	R4年
事業活動収入	329,260,422	345,021,821	348,840,442	401,776,992	422,535,137	424,168,645	435,544,661	549,375,014	462,943,603	527,445,984	519,599,881	543,256,423
事業活動支出	271,978,125	290,512,749	302,015,685	348,877,098	384,733,677	385,008,441	394,673,878	391,794,951	416,749,422	466,914,085	474,853,302	480,768,613
事業活動資金収支差額	57,282,297	54,509,072	46,824,757	52,899,894	37,801,460	39,160,204	40,870,783	157,580,063	46,194,181	60,531,899	44,746,579	62,487,810
当期資金収支差額合計	45,775,040	33,903,593	-8,134,895	-84,913,222	2,954,170	-380,956	3,280,692	116,765,149	-83,262,745	25,096,793	14,524,273	30,750,344

令和4年度収支報告
・事業活動収入は 543,256,423円で前年度より 23,656,542円増収だった。全事業所サービスにおいて、前年度よりも介護保険収入が増えた。
・事業活動支出は480,768,613円だった。5,915,311円支出増だった。人件費率66%で、前年度の人件費率68.2%より、2.2%減少した。
・事業活動資金収支差額は 62,487,810円で前年度より 17,741,231円増収だった。
・当期資金収支差額合計は 30,750,344円で、前年度より 16,226,071円増収だった。

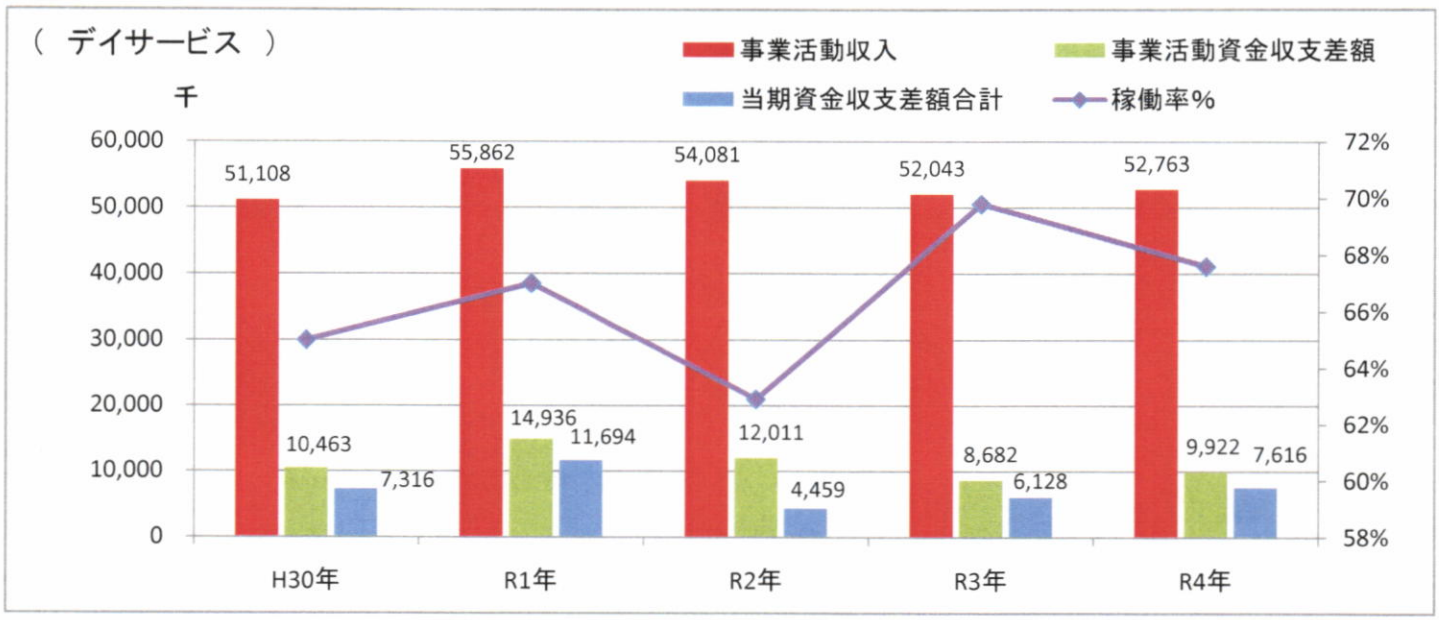
(7)資金収支活動の推移と報告(事業所別)



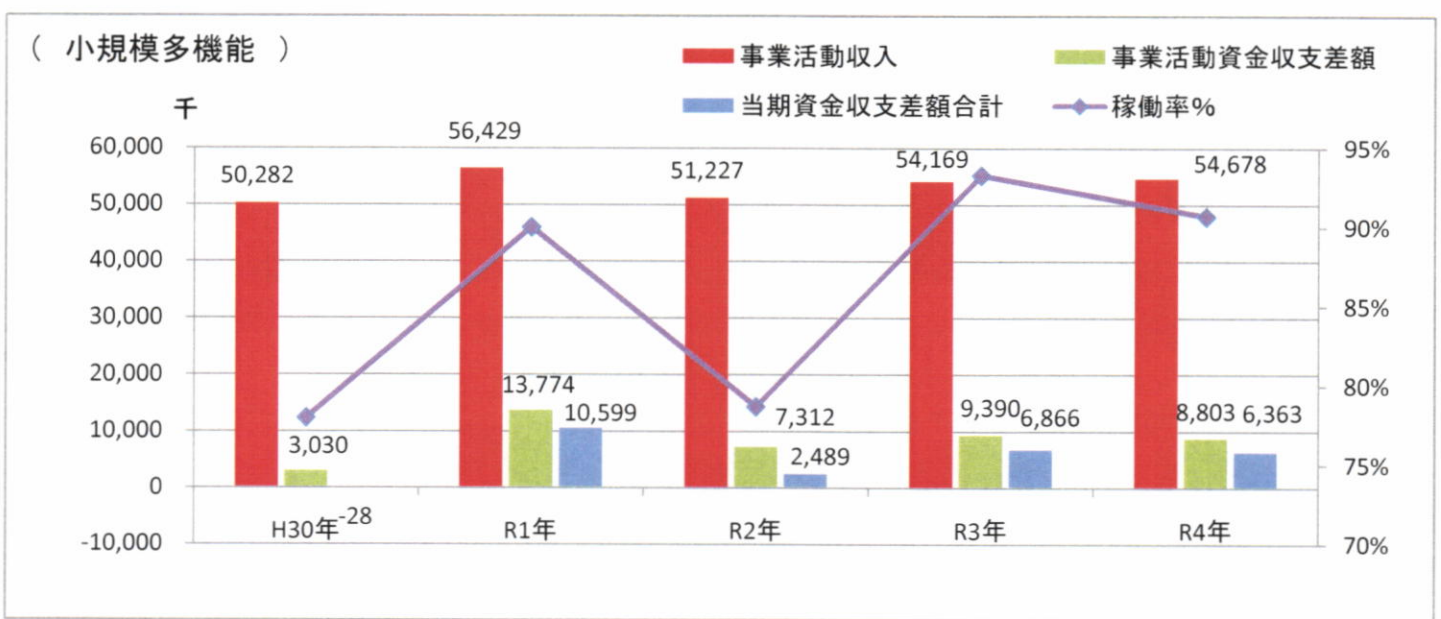
	H30年	R1年	R2年	R3年	R4年
稼働率%	97%	97%	98%	94.7%	96.9%
事業活動収入	149,614,174	151,218,562	154,171,854	149,491,466	156,037,485
事業活動資金収支差額	23,116,524	24,407,410	25,940,125	19,979,405	31,856,616
当期資金収支差額合計	11,663,563	12,512,460	15,750,359	10,453,614	20,141,365



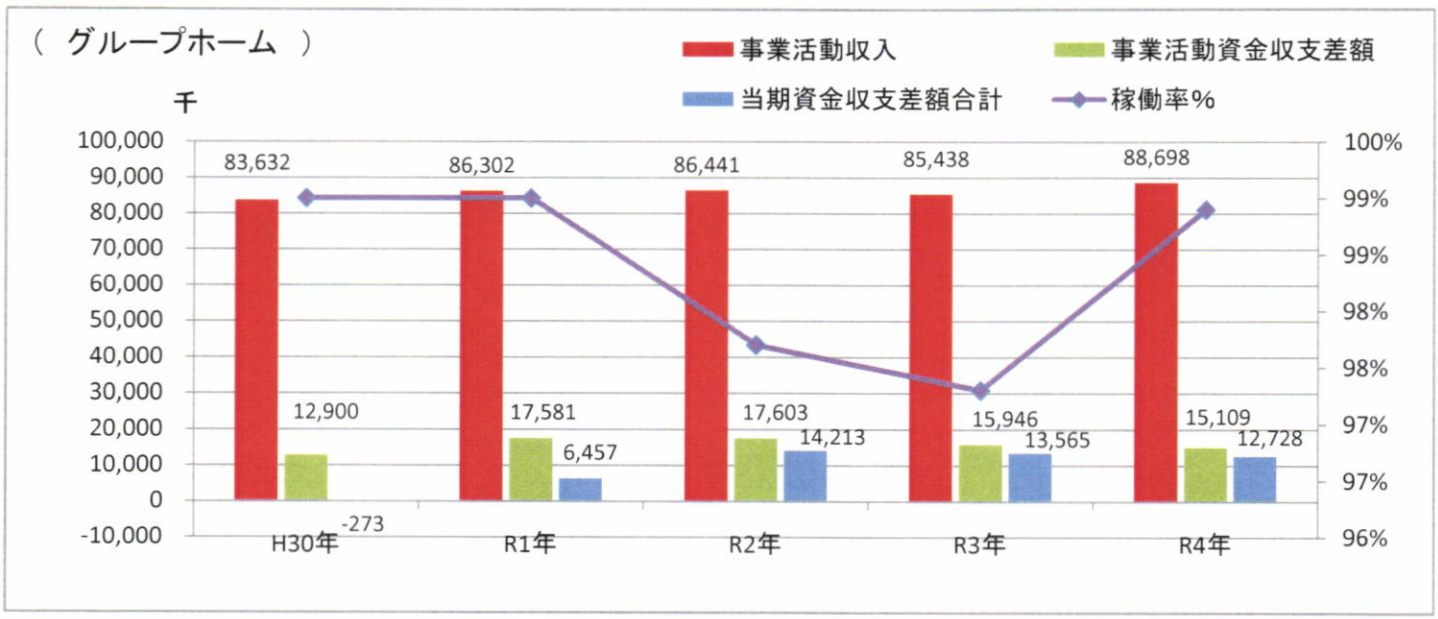
	H30年	R1年	R2年	R3年	R4年
稼働率%	103%	103%	92.9%	96%	100.4%
事業活動収入	98,811,788	100,239,468	94,897,901	92,007,320	99,851,981
事業活動資金収支差額	16,513,535	13,986,718	6,146,597	2,368,968	10,014,318
当期資金収支差額合計	9,746,459	7,145,253	429,647	−3,150,757	5,143,343



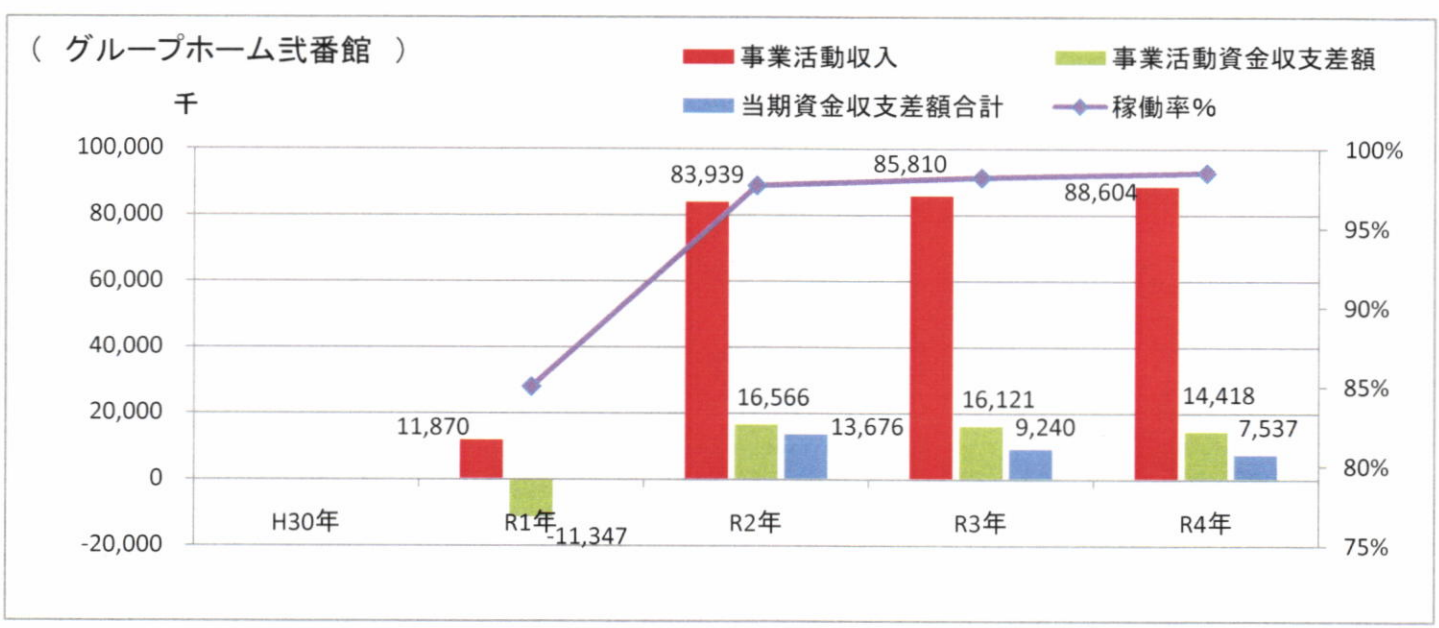
	H30年	R1年	R2年	R3年	R4年
稼働率%	65%	67%	62.9%	69.8%	67.6%
事業活動収入	51,107,965	55,861,562	54,080,553	52,042,696	52,763,255
事業活動資金収支差額	10,462,771	14,935,702	12,010,639	8,681,872	9,921,840
当期資金収支差額合計	7,315,873	11,693,720	4,458,850	6,128,198	7,615,966



	H30年	R1年	R2年	R3年	R4年
稼働率%	78%	90%	78.7%	93.3%	91%
事業活動収入	50,281,517	56,428,762	51,227,482	54,169,437	54,677,804
事業活動資金収支差額	3,030,001	13,773,740	7,312,360	9,389,639	8,802,867
当期資金収支差額合計	−28,298	10,598,637	2,489,410	6,865,714	6,362,642



	H30年	R1年	R2年	R3年	R4年
稼働率%	99%	99%	97.7%	97.3%	98.9%
事業活動収入	83,632,059	86,301,969	86,441,320	85,438,343	88,697,737
事業活動資金収支差額	12,899,542	17,580,834	17,603,004	15,946,463	15,108,939
当期資金収支差額合計	−272,542	6,457,335	14,213,142	13,565,271	12,727,747



	H30年	R1年	R2年	R3年	R4年
稼働率%		85%	97.7%	98.2%	98.5%
事業活動収入		11,869,992	83,939,446	85,810,492	88,604,294
事業活動資金収支差額		−11,347,435	16,566,144	16,121,175	14,417,700
当期資金収支差額合計		−111,834,526	13,676,282	9,239,983	7,536,508

８．令和４年度の事業所評価

特別養護老人ホーム

（1） よりよい接遇の実践について

・ 「です・ます」を付けず、入居者様の行動を制限してしまうような声掛けがあった。言葉が崩れてしまうことがあった。
・ 笑顔が足りなかったと思う。
・ 入居者様の意思決定を促す声掛けや意志を尊重するケアを行えた。
・ こちらの思いが強く出てしまい否定的な言葉を使ってしまう事があったので、思いやりのある言葉がけに努めたい。
・ 以前よりも入居者様の思いに寄り添う声掛けが出来る様になった。
・ 職員同士で注意し合う環境づくりに取り組んだことで、自身の接遇について見直すきっかけにもなり、接遇力は向上したと感じる。

（2） 多職種を含めた職員同士のチームワークの強化について

・ 他職種への理解が及ばなかった。
・ 相談や報告に対して、上司先輩が丁寧に的確な対応をしてくれた。
・ 入居者様の状態の変化に注意を払い早く気付けるよう努め、なにかあった際には速やかに報告し情報共有を図れた。
・ 職員間の伝達不足や多職種間での報連相の不足を感じる事があった。
・ 情報共有の手段に工夫が必要と感じた。

（3） 感染症を持ち込まない拡大させないについて

・ 出社前の抗原検査もあり安心して仕事が出来た。
・ 職員ひとりひとりが注意して感染対策を行えた。協力しての感染対応もできた。入居者様の発熱時などすぐに対応し他者への感染の予防ができた。
・ 私生活から感染対策を意識して体調管理をすることができた。体調を崩すこともあったが、入居者様に感染させないよう意識して実践できた。

ショートステイ

（1） 環境作りに関して

・ 安全・安心に過ごせる様、利用者様に寄り添う接遇と環境つくりを行うように心がけた。
・ 日々変化を把握しておらず対応できていない時もあった
・ 分からない時には利用者様と相談し行った。

（2）接遇に関して

・ 意識して行った。
・ 慌ただしい日や忙しい日は、なかなか寄り添うことができなかったり、意識はしているが「です・ます」でなくタメロになることがあった。

・　コロナ禍であり寄り添う事に難しい場面もあった。

（3）　ケアプランの実践、それに沿った記録入力を行う

・　報連相に心がけ、情報共有に努めた。
・　曖昧な所は都度確認、相談しながら行った。
・　日々の変化についていけず抜けてしまい統一したケアになっていないことがあった。
・　ＡＤＬ表や情報、ケースを都度確認した。
・　申し送りやミーティングできちんと統一出来る様、話し合えた。
・　家族様からの連絡事項は必ず伝え、ケース入力した。
・　担当利用者様のケアプランの把握は出来たが、他の利用者様のケアプランの内容を全て把握することは難しかった。
・　ケアプランに添い、対応、記録に努めることができた。
・　新規の方が重なる時には混乱することがあった。
・　ケアプランに沿った記録を確実に行えなかった。
・　ミーティング等で振り返り、ケアの見直し、提案はできていた。

グループホーム

（1）　身体的重度者の対応もできるように介護・医療について研鑽を積むについて
身体的な重度者がいなかったため、現場で勉強する機会はあまりなかったが医療面で入居者様の身体状況等の把握はできていたと思う。

（2）　身体的重度者の対応もできるように、介護・医療について研鑽を積むについて
認知症については、ケアのやり方に悩む方が多く、どう対応すればいいのかを話し合う機会が多かった。対応が難しく思い悩む職員が、自分にはできない、何が悪いのかわからない等、重度の認知症の方への対応に苦慮していた。

（3）　何事も他人事と思わず自分事として受け止め、他の意見を受け入れるについて
できているユニットとできなかったユニットに分かれた。できているユニットは職員間のコミュニケーションは上手くいっていたと思うが、できなかったユニットは、他の欠点ばかりに目がいき、職員間もぎくしゃくした時もあった。

グループホーム弐番館

（1）　目線は入居者様へ、職員同士の会話より入居者様との会話を行うについて
各々の特性にもよるが、入居者様との会話が巧くできない職員も見られたが、入居者様を見て知ろうとする努力はできた。引き続き暖かい目線で入居者様を見て信頼関係を築き上げたい。

（2）　入居者様の顔の見える記録を残すについて
記録については時折、抜けが見られたが、以前と比べ改善されてきたと思われる。研修で更に学び、日常に取り入れていきたい。

（3）　リハビリ・レクレーションの充実、イベントの企画、美味しい食事の提供

・　イベントについては昨年同様にはできたが、今後は目新しいイベントを考え、開催していきたい。
・　コロナ禍で行動範囲が狭まり、入居者様の筋力、体力が落ちてしまった事は否めない。リハビリの必要性をより感じた。
・　レクや食事についてはいろいろと試行錯誤してチャレンジできた。イベントについては昨年同様にはできたが、今後は目新しいイベントを考え、開催していきたい。

小規模多機能

（1）　送迎時やフロアでのご様子・日常的な会話の中から小さな変化や気づき、思いを感じることができたが、会話ができない方・思いを伝えられない方への気配り・配慮が足りなかった。

（2）　気づきをミーティングや申送りで共有することはできたが、ケアの質を上げるためには一人ひとりのサービス内容を深く理解し、今以上の気づき・気配りが大切である。外部からの講師から助言を頂き、各自のケアの見直しが出来た。

（3）　コロナ感染者が出た時の対応に戸惑った事もあり、勉強会を開催し感染時の対応の再確認を行うことができた。臨機応変な対応に心掛けていたが、実際に慣れていない事・いつもと違う事が起きた場合、冷静に対応できないこともあった。

デイサービス

（1）　利用者様のケアプランに沿った個別ケアに取り組むについて

・　脳トレプリントや会話等のコミュニケーションを図る等ケアプランを確認しながら取り組めた利用者様や色々提供しても興味を示して頂けず取り組みがなかなか進まない方もおられ、ニーズの汲み取りは難しいと感じた。
・　その時の身体状況に応じて入浴方法を検討しその方にあった入り方で、本人様やご家族により安心していただくことができた。
・　担当職員が意識的に取り組みを実行し、ケース入力をすることとなっているが振り返ると担当している方の記録が少ないことに気づいた。

（2）　振返りミーティングを継続し、活用しながら丁寧な接遇をするについて

月末のミーティングでは総合的に反省会が持てたが毎日の振り返りミーティングの時間が取れる日と取れない日があったため来年度は時間を変更し、朝のミーティングに盛り込み、接遇や介助などその日何を意識してケアをするか発表し、スタートする事とした。

（3）　お試し利用を大切にし、新規獲得に努めるについて

・　お話し相手がいるか、楽しそうにされているかを意識し取り組めた。
・　マッサージやホットパック、マッサージチェアなど試して頂き、利用につなげることができているため継続していく。

・　お試し利用の日程の職員への周知方法が解りづらいため、日程表を作成し掲示して情報の把握をできるように工夫していく。

看護部

（1）　令和4年度の救急搬送件数は10人であり、令和3年度の23人に比較して少なく、体調の急変が少なかったことや入院に至る前に受診するなどの対応がある程度できていたことも要因の一つと考えられる。介護職の気づきから、アセスメントして受診につなげるなどの連携がとれていたと思う。

（2）　各事業所への感染ラウンド実施や実践的な研修（吐物処理、予防具の脱着）を行った。各事業所のミーティングに参加し、感染対策についてその事業所特有の質問に答えたりした。マニュアルの見直しを行い、消毒の掲示を統一し、発熱のフローチャートを事業所毎に配布した。最近では、発熱者への感染対応が現場でできるようになり、全事業所ではないが嘔吐物処理セットを使用して対応できるようになった。

栄養部

（1）　多職種とお互いに相談し合える関係で良好。栄養面での相談も以前より増えてきている。また、今年度初めての経口移行加算の対象者に対しても、他職種で報告連絡相談ができており、より適切な食支援ができていると思う。今後も継続してやっていきたい。

（2）　食事量のバラつきは、今年度はほとんど指摘がなかった。食材量の見直しや、計量のマニュアル化で日々調整してきたことが良かったと思う。ミールラウンドでは、「相河の食事美味しいわ」「毎日楽しみにしているよ」との声もよく聞かれ、嬉しい。従業員にも伝え、モチベーションに繋げている。

（3）　栄養部として、ヒヤリが2件（異物混入、誤配膳）あったので、なくしていきたい。食中毒も無く、感染症も従業員間で広まらないよう努めたので良かった。

（4）　セレクト食のマンネリ改善の為、工夫したが、名前だけでは選びにくかったり、人気が偏ったりしたメニューもあったので、分かりやすく、選びやすく、人気が同じくらいになる様なメニュー提案をしていきたい。

（5）　要望を柔軟に受け入れ、献立に反映させることが出来てよかった。今後は味の取り合わせやメニューバランスなども考慮し、食欲が湧き、食事が楽しみになる様な工夫をしていきたい。

・人手不足の中で、声をかけあい、協力しながら、やりくりできていた。

・細かいミス（皿の枚数等）があるので、ダブルチェックでなくしていきたい。

事務

（1）　業務担当者を明確にする事で、他部署との連携がスムーズになった。毎月担当進歩を確認し、お互いの業務を理解し合う意識を持つことで、カバーし合える体制にもなってきている。

（2）　ご家族様の面会制限の緩和が進み、面会の機会も増えてきている。ご家族様とは相河の窓口として顔馴染みの関係でお話し頂ける機会も増えている。相河に大切なご家族を預けて良かったと、より思って頂けるような窓口対応を今後も行う。

（3）　事務所で管理している書類の整理を順次進めている。長年蓄積された資料を仕分けるには時間を要する事もあるが、保存期間や今後も参考になるであろう資料を見極めて整理を続けていく。各事業所も書類が蓄積されているので、保存期間を統一し整理する必要がある。

9. 入所・退所状況

特別養護老人ホーム入退所（定員29名）

区分		新規入所者				退所者					
年度	月	在宅	その他（他施設から転入等）	病院	計	家庭復帰	医療機関入院	他施設へ転出	在籍入院中に死亡	看取り死亡	計
令和4年度	4						1				1
	5			1	1						
	6										
	7										
	8			1	1		1			1	3
	9			2	2		1				1
	10		1		1		1				1
	11										
	12	1			1				1		1
	1			1	1					1	1
	2										
	3										
	計	1	1	5	7		4		1	2	7

グループホーム入退所（定員18名）

年度	区分 月	新規入所者				退所者					
		在宅	その他（他施設から転入等）	病院	計	家庭復帰	医療機関入院	他施設へ転出	在籍入院中に死亡	看取り死亡	計
令和4年度	4			1	1		1				1
	5									1	1
	6			1	1						
	7										
	8										
	9		1		1					1	1
	10										
	11										
	12										
	1										
	2										
	3										
	計		1	2	3		1			2	3

グループホーム弐番館入退所（定員18名）

年度	区分 月	新規入所者				退所者					
		在宅	その他（他施設から転入等）	病院	計	家庭復帰	医療機関入院	他施設へ転出	在籍入院中に死亡	看取り死亡	計
令和4年度	4										
	5										
	6										
	7	1		1	2	1				1	2
	8										
	9										
	10									1	1
	11	1			1						
	12										
	1										
	2								1		1
	3	1			1						
	計	3		1	4	1			1	2	4

10. 事故発生状況（金沢市報告）　〔R4年4月1日　～　R5年3月31日〕

部署	件数	内容	状況
特養	3	左前額部に5針縫合	居室より大きな叫び声が聞かれ、訪室すると氏が床に左側臥位の状態で転倒しているのを発見。出血量多く緊急受診。左前額部に5針縫合をうけた。CTでは特に問題なし。
		右大腿骨転子不全骨折	離床の際、右大腿部から股関節付近の痛みの訴え聞かれる。外傷なく内出血も見られず。翌日も痛みと右大腿部腫れ、熱感軽度あったため受診し、右大腿骨転子部不全骨折と診断あり。医師より骨粗鬆症のため簡単な動作で骨折することもあるとの説明あり。いつどのタイミングで起こったかは不明であるが、何らかの身体介護の際に発生した可能性もあると思われる。施設療養となり、移乗・排泄・入浴などの身体介護は職員2名で対応し、1ヵ月後の再診で経過良好。
		打撲	入浴時、入居者様の不意な動きに対し、慌てた職員が浴槽内の安全バーを下げた際、右前頭部に強く当たってしまった。外傷は見られないが痛みの訴えあり。念のため院受診する。受診結果、頭部ＣＴにて異常なし。
ショートステイ	5	切傷・擦過傷	夜間帯、居室入口付近でうつ伏せに倒れている所を発見。歩行器がひっくり返っており頭部と左手第三指の裂傷部より出血見られ緊急搬送。指のレントゲン、脳のCT検査の結果異常なし。頭部の裂傷にガーゼ保護、左手第三指の裂傷に対して三針縫合。
		右大腿骨頸部骨折	夜間帯、居室より大きな音がし駆けつけると壁を背に向け尻もちをつかれていた。転倒する際壁に頭部をぶつけた様子と右大腿部への強い痛みあり。翌日に受診。CT、レントゲン検査の結果、右大腿骨頸部骨折で入院し後日手術を受けた。
		新型コロナウイルス感染症	発熱見られ抗原検査実施。検査結果は陰性であったが翌日病院でのPCR検査で陽性反応あり。
		新型コロナウイルス感染症	コロナ症状見られ抗原検査で陽性反応あり。
		新型コロナウイルス感染症	上記の方と同フロアにいたため高原検査実施。結果陽性反応あり。
グループホーム	2	新型コロナウィルス感染症	夜勤明けの職員が、明けの日の昼頃から、咳が出て身体もだるいことから、自宅にあった抗原検査キッドを使い検査したところ、プラスの反応が出たため、病院にてＰＣＲ検査を実施、陽性と判定あり。
		上腕骨骨折	紅葉ドライブに行った帰りの車への乗車の順番を待っている時、職員が他入居者様のシートベルトをかけるために本人から目を離した際、車の反対側のドアから乗車しようと歩き出し転倒。当日は痛みの訴えはなく、翌日に痛みと腫れがあり受診。結果は上腕骨骨折の診断。三角巾で固定し、施設療養となった。
グループホーム弐番館	2	転倒により顔面外傷	職員と施設近辺を散歩中に突然興奮状態になり、職員を振り払いゆるい傾斜の駐車場で顔面から転倒し顔面出血あり。受診しCT検査結の結果は異常なし。左眉上２針縫合する。
		誤薬により血圧低下	朝食後、他の入居者様の薬を職員が誤って与薬した。降圧剤が含まれていたため午後になって血圧低下あり。受診し点滴により血圧は回復し、グループホームに帰所する。
小規模多機能	0		
デイサービス	0		

11. 救急車搬送状況

〔R4年4月1日　～　R5年3月31日〕

年度	月	件数	部署	状況
令和4年度	4	1	特別養護老人ホーム	尿路感染症
	5	1	グループホーム弐番館	肺炎、心不全
	7	1	ショートステイ	脳梗塞
	9	1	特別養護老人ホーム	SPO2低下
	10	2	特別養護老人ホーム	SPO2低下、肺炎
			ショートステイ	転倒にて頭部・左第3指裂傷
	11	1	特別養護老人ホーム	SPO2低下、腹痛、胆嚢炎、肺炎
	12	1	ショートステイ	血便、SPO2低下
	1	1	グループホーム弐番館	心不全
	3	1	グループホーム	意識レベル低下、動脈瘤破裂
合計件数		10		

12. 職員の採用・退職の状況

〔R4年4月1日　～　R5年3月31日〕

職種別		施設長	事務員	直接処遇職員						栄養士	宿直	合計
				生活相談員	介護職員	看護職員	機能訓練指導員	ケアマネ	小計			
令和4年度	採用	0	0	0	15(5)	2(1)	1	0	18(6)	0	0	18(6)
	退職	0	0	0	17(10)	3(2)	1	0	21(12)	0	0	21(12)
	3月末職員数	1	4(1)	1	88(18)	5(2)	1(1)	2	102(22)	1	2(2)	105(24)

(　)はパート等非常勤人数

13. 施設職員の研修状況

〔R4年4月1日　～　R5年3月31日〕

	回数（延べ人数）	
新人研修	2回（17名）	法令遵守・消防・防災　事故防止　各部署の概要と活動　身体拘束排除・虐待防止・プライバシー保護　感染・褥瘡など
職場外研修	32回（101名）	石川県社会福祉協議会　福祉総合研修センター等の研修会・オンライン研修に参加
職場内研修	12回（208名）	水害時対応訓練　介護職が行える医療行為について　認知症ケアの実践
		吐物処理　記録　身体拘束・虐待防止　地域の社会資源の把握及び連携
		各事業所発表（デイサービス・小規模多機能）など
		喀痰吸引実地研修
外部講師研修会	6回（131名）	新人接遇・接遇フォローアップ研修
		介護記録について
外部講師介護指導	22回（70名）	基本的介護の個別指導